

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第44回本部会議 記録

日 時／令和3年4月8日（木）

15：30～16：08

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（中野副知事）】

それでは、ただいまから、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部第44回本部会議を開催いたします。

まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明をお願いいたします。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

それでは、道内の感染状況等について、ご説明いたします。資料1をご覧ください。

スライドの1枚目でございますけれども、道独自の警戒ステージの指標についてでございますが、昨日、4月7日時点で、全道では重症者用病床、療養者数など、4つの指標において、先週に比べて増加傾向となっております、札幌市についても、ほぼ同様の傾向が見てとれます。

続いてスライドの2枚目をお願いします。

新規感染者の状況でございますけれども、昨日、4月7日時点の直近1週間で439人、週合計の人口10万人当たり8.3人と、先週からほぼ横ばいの状況でございます。

また、感染拡大の兆候を示すリンクなしの割合でございますけれども、昨日時点で35.1%となっております。

続いてスライドの3枚目をお願いします。

札幌市の感染状況ですけれども、札幌市では感染の横ばい傾向が続いておりまして、昨日、4月7日現在で、10万人当たり14.9人となっております、全道の感染者の約7割弱を占めているという状況でございます。

続いて、地域別のリンクなしの割合でございますけれども、札幌市以外では先週より大幅に低下しておりますけれども、札幌市では先週より上昇しているという状況でございます。

続いて、医療提供体制の負荷の状況ですけれども、札幌市内における変異株の影響などもありまして、昨日、4月7日時点での入院患者数は444名となっております。

続いて、重傷者用の病床でございますけれども、現時点で20名となっております、増加のスピードが速くなっており、注視が必要と考えております。

次のスライドです。

新規感染者の年代別の割合でございますけれども、3月中旬以降、30代以下の割合が低下しておりまして、最近では横ばいの状況でございます。

続いて、監視体制でございます。

検査数については、直近1週間では、14,545件、陽性率も3.0%とほぼ横ばいで推移しているという状況でございます。

地域別の感染状況でございますけれども、札幌市を含みます石狩管内が、引き続き、全

道の7割超を占めてございますが、直近1週間では、集団感染の発生などにより、上川管内の感染者が急増している状況でございます。

続きまして、集団感染の発生状況ですが、1月と比べて2月、3月は、ほぼ半減という状況でございます。

4月に入ってから1週間についても、概ね同様の傾向が続いているということでございます。

また、地域別の状況でございますけれども、直近1週間の集団感染の発生状況をそれぞれ札幌市とそれ以外に分けて見てみますと、その前の週に比べて、札幌市では、件数、人数ともに横ばいであったものの、札幌市以外でございますが、飲食店等における集団感染が件数、人数ともに増えておりまして、今後も注視が必要な状況でございます。

変異株への対応状況でございます。

道立衛生研究所において、2月1日から4月7日までの間で、752件の変異株に係るスクリーニング検査を実施しておりまして、実施率は58%ということでございます。

また、ゲノム解析でございますけれども、これまで137検体で実施し、そのうち124検体で変異株と確定し、全て英国型であることを確認しております。

次のスライドにさせていただきまして、3月1日からの1週間ごとの変異株PCR検査の実施状況でございます。

道内では新規感染者数は、ほぼ横ばいで推移しておりますが、変異株疑い事例の数というのが、週を追う毎に増加している状況でございます。

続いて、全国で比較したものでございますけれども、都道府県別のスクリーニング検査ですが、国の直近の公表でございます3月22日から28日までの速報値では、本道では、新規感染者数が他都府県に比べ多くはない一方で、全国で件数としては、東京都に次いで多い2番目のスクリーニングを実施しているという状況でございます。

最後、総評でございます。

感染状況でございます。道内の新規感染者数は、昨日現在の直近1週間で10万人当たり8.3人となっております。集中対策期間の終了以降、概ね横ばいで推移しておりますが、高齢者の割合が高くなっているという状況です。

このうち、札幌市ですが、全道の感染者数の7割近くを占めておりまして、昨日現在で、10万人当たり14.9人となっております。感染しやすいとされる変異株による感染が増加し、予断を許さない状況が続いているという状況です。

続いて医療提供体制ですが、高齢者の感染者が多いことから、特に札幌市内における入院患者や重症患者の増加傾向が続いておりまして、医療提供体制への負荷が増しておりますことから、注視が必要な状況となっております。

今後の対策ですが、人の移動や会食機会の増加時期を迎えまして、引き続き、札幌市内の外出・往来自粛のほか、宮城県、大阪府、兵庫県との往来自粛の徹底を働きかけるとともに、とりわけ、重症化リスクの高い高齢者層の感染増を踏まえまして、注意喚起を徹底していく必要があると考えております。

なお、大阪府におきましては、感染が急拡大し、重症患者用の病床など、医療体制が非常に厳しい状況になっていることを受けまして、昨日、大阪府といたしまして、医療非常事態宣言を出しております。

また、東京都につきましても、まん延防止等重点措置の適用を要請することを決定したというところでございまして、今後の動きについて注視が必要な状況でございます。

併せて、感染拡大の予兆の探知に向けまして、変異株に対する検査体制の更なる整備を図りますとともに、感染が拡大している地域における感染が発生していない高齢者施設等の従事者に対する検査など、必要な検査を実施してまいります。

また、来週から高齢者向けワクチンの接種が開始されるなど、ワクチン接種が本格化いたしますことから、地域における接種体制の支援についても強化していくこととしております。

続いて、資料2をご覧くださいと思います。

先ほどご説明いたしました道内の感染状況等について、専門家及び有識者のご意見を伺うとともに、市町村や関係団体にも事前にお知らせしてございまして、専門家及び有識者からのご意見でございますけれども、概ね妥当であるというご意見をいただいておりますが、「札幌市内では感染経路不明割合が増加しており、感染の拡大が懸念される。感染リスクを回避できない場合の不要不急の外出自粛など、現在の対策について強く市民に発信する必要がある。」といった意見や、「今月から、高齢者を対象としたワクチン接種が開始されるが、地域の事情によって接種対象者や開始時期が異なることが予想されることから、落ち着いた環境で接種が行われるよう、報道機関に対しても丁寧な情報提供について協力を求めることも必要。」といったご意見もいただいております。

また、関係団体、市町村からも、概ね妥当であるというご意見でございましたが、「既に道においては、外出自粛などの行動制限が要請されている地域との不要不急の往来自粛要請を行っているが、対象都府県名とともに道民に今一度周知徹底していただき、感染が拡大傾向にある他都府県との移動によって、北海道の感染が拡大するリスクを抑制してほしい」といった意見や、「北海道として積極的に変異株のスクリーニングを行っていること、また、人の動きに伴って感染拡大していること、変異株と言っても、基本的な対策は変わらないことをしっかり広報してほしい。」などの意見が寄せられているところでございまして、こうしたご意見については、今後の対策や情報発信に活かしてまいりたいと考えております。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（中野副知事）】

ただいまの説明に関連をいたしまして、札幌市の感染状況について、本日、オブザーバー出席をいただいております札幌市の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市の山口でございます。札幌市内の感染状況について、資料3に基づきまして、ご説明いたします。

次の頁をご覧ください。

新規感染者数は3月の初旬から増え始めてございまして、感染者数の急増には至ってはいないものの、変異株確認数の増加もございまして、ギリギリのところ感染拡大を抑え込んでいるとも考えられるところでございます。

現在予断を許さない状況というふうに考えております。

感染経路が追えない方の割合、いわゆるリンクなしの方々の割合も約40%と増加傾向にありまして、感染の広がりに注意が必要だというふうに考えております。

次の頁をご覧ください。

新規陽性者数、これは濃い青の棒グラフでございますけれども、これに加えまして、黄色の入院患者数と赤の折れ線グラフの重症患者数の推移をお示ししてございます。

黄色が非常に急増しているところ、また、赤い折れ線も急増しているところでございますが、変異株患者の増加に伴いまして、3月以降、入院が必要な患者が急増しております。

退院までの期間も長期化していることから、医療体制の負荷が大きくなっているところでございます。

11月の流行時には、患者数、この青い棒グラフのところがいったん増えまして、その後少ししてから黄色の入院患者数が増えているのですけれども、今回は青い棒グラフがそれ程でもないにもかかわらず、黄色の入院患者数が非常に急増している状況がありまして、そして赤の重症患者数なのですけれども、10月以降で最大数を示しているということがありまして、こうした変異株の患者さんは、一部重症化しやすいのではないかというような特性があるとも言われていることありまして、重症患者数がこのように増えている状況があらうかと考えてございます。

次の頁をご覧ください。

検査数の推移でございます。直近の1週間の検査件数は8,168件になりまして、1日の平均は約1,100件、1,100件程度検査を実施している状況でございます。

また、直近の陽性率は3.6%と横ばいでございます。

次をご覧ください。

年齢別の割合をお示ししました。これまでは、30歳以下の若年層や60歳以上の高齢者の割合が高いところございましたけれども、直近の週では、色が非常にカラフルで同じような割合になっているところから、各世代に幅広く感染の広がりが見られているというふうに考えております。

次の頁をご覧ください。

新規患者数の感染経路につきましては、家庭内での感染が引き続き多く見られているほかは、直近では、病院や福祉施設などを感染経路とする割合が増加しているところがございます。

次をご覧ください。

集団感染事例でございます。先ほどの感染経路も関連していると思われませんが、病院や福祉施設等で新たに発生しているところから、医療体制の逼迫を防ぐためにも、重症化リスクの高い方へ感染を防ぐことが重要と考えております。

それでは、最後の頁をご覧ください。

変異株の検査状況、PCRスクリーニング検査の実施状況でございますが、3月30日から4月5日までの1週間、下の方の段でございますが、新規陽性患者の検体数296検体のうち、その約7割の208検体につきまして、変異株PCR検査を行っております。

陽性率につきましては、前の週に続きまして50%を超えておりまして、そういう状況になってございます。

変異株患者のうち感染経路が不明な方の割合も増えている状況から、市中への更なる広がりに注意が必要だというふうに考えている状況でございます。

以上でございます。

【副本部長（中野副知事）】

続いて、その他の報告事項につきまして、各部各振興局から順次発言をお願いいたします

す。

まず、新型コロナウイルス感染症対策監からお願いいたします。

【原田新型コロナウイルス感染症対策監】

新型コロナウイルスワクチンについては、来週から高齢者向けの接種が始まりまして、今後、地域での接種が本格化していく中で、道としての相談センターを開設することといたしましたので、ご報告いたします。

まず、ワクチンの相談体制でございますが、表にありますとおり、ワクチン接種を受ける医療機関や接種の日程、接種に際して発行されるクーポン券など、一般的な相談につきましては、お住まいの市町村にお問合せいただくこととなっております。

また、医学的知見が必要となります専門的な相談などについては、市町村では対応が困難であることから、こうした問合せに対応するため、道では今週土曜日、10日にワクチン接種相談センターを開設することとしたところでございまして、薬剤師による医学的な専門相談を希望される場合には、このセンターを活用していただきたいというふうに考えております。

これらのほか、ワクチン接種のあり方等に関する問合せについては国が、各ワクチンの取扱い等の問合せにはワクチンメーカーが、対応することとされております。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（中野副知事）】

次に、経済部長からお願いします。

【山岡経済部長】

経済部からは、カラオケ設置店におけます感染拡大防止に向けました対策徹底の周知について、ご報告申し上げます。資料はございません。

道内でもカラオケ設備のある飲食店等でクラスターが発生している事例が見うけられません。

道では、飲食を主として業としております店舗において、カラオケを行う設備を提供している場合につきまして、カラオケや飲食の関係団体等を通じまして、感染拡大防止の対策の徹底をお願いする依頼の文書を、発出したところでございます。

本部員の皆様におかれましても、関係事業者への周知徹底につきまして、ご協力をお願い申し上げます。

経済部からは以上です。

【副本部長（中野副知事）】

続きまして、上川総合振興局長、お願いいたします。

【佐藤上川総合振興局長】

上川から管内における感染状況と主な取り組みについて、ご報告いたします。資料5をご覧ください。

まず、最近の集団感染の発生状況についてでございますが、富良野市内におきまして、3月15日に飲食店で、3月30日には高齢者福祉施設で、集団感染が発生いたしました。

さらに今月に入りまして、旭川市内では、カラオケ教室をきっかけとして、飲食店などあわせて4件、計34人となる集団感染が連鎖的に発生しておりましたが、増えまして、本日、旭川市から新たに5件目となるクラスター発生が発表されてございます。

続きまして、感染拡大防止に向けた主な取り組みについてでございますが、まず富良野市につきましては、富良野市役所や料飲店組合と共同で市内飲食店を訪問し、北海道スタイル、黙食について、協力を呼びかけますとともに、飲食店従業員に対しPCR検査を実施してございます。

また、高齢者福祉施設につきましては、当管内の当麻町、空知管内の雨竜町にございます社会福祉施設のご協力をいただきまして、介護職員を派遣していただいております。

さらに、旭川市内での集団感染への対応といたしまして、振興局の保健師を市の保健所に派遣をいたしまして、追跡調査の支援などにあたっておりますほか、資料にございませんけれども、ただいま経済部長からお話ございましたカラオケ関係についてでございますが、旭川市との協力によりまして、市内繁華街の飲食店に対して、チラシの配布や店舗を訪問しての呼びかけといったことを、ただいま準備しているところでございます。

こうした取り組みに加えまして、振興局のホームページやSNSの活用、さらには他の市町村にもご協力いただきながら、感染対策について広く周知徹底してまいります。

次にワクチンの接種体制についてでございますが、一昨日、旭川市の西川市長、表副市長、赤岡副市長にお会いする機会がございました。

その際、例えば旭川市の近隣の町にお住まいの方が、旭川市内のかかりつけのお医者さんでワクチンを接種するなど、市町村をまたがる相互接種を行う場合、費用負担をどの様にするのかといったルール作りに向けて、情報提供をしていただきたいとのご要望をいただきました。

同様の声につきましては、上川中部圏の他の首長さんからもいただいております、振興局といたしましては、旭川市や周辺の町、旭川市医師会などとの間で調整が円滑に進むように、役割を果たしていきたいと考えてございますので、本庁の関係部局におかれましては、引き続き情報提供、アドバイスについて、ご協力いただければ幸甚でございます。

なお、旭川市内にあります宿泊療養施設の運営についてでございますが、運営にあたりまして、旭川市から連日、管理職員の派遣をいただいております、こうした連携はもとより、留萌、宗谷、そして空知と各振興局から、当番ローテーションの軸となります管理職員を派遣いただきながら対応させていただいているところでございまして、この場をお借りして、厚く御礼を申し上げる次第でございます。

最後に、新しい旅のスタイルについてでございます。

夏のハイシーズンに向けて、感染防止対策を徹底させ、クリーンで安全な本道観光をPRしていくことが重要でございますことから、振興局といたしましても、本庁と連携し、新しい旅のスタイルの定着に向け、実地における確認検査などに取り組んでいきます。

また、併せて旭川市独自の宿泊助成であります、あさっぴー割、こういったものなど市町村独自の取り組みと連動させながら、新しい旅のスタイルの定着を図ってまいりたいと考えております。

上川からは以上でございます。

【副本部長（中野副知事）】

その他、各部各振興局から、ご発言ありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、ここで本部長から、お願いいたします。

【本部長（知事）】

3月27日の札幌市内における外出自粛、往来自粛のお願いから2週間が経過をいたしました。

この間、全国的に感染が拡大している中におきまして、道内においては、道民の皆様のご理解とご協力によりまして、全道の新規感染者数は概ね横ばいという状況で推移をしているところであります。

他県で見られるような急激な拡大には至っていないという状況でありまして、まずはこのことに対して、皆様にご理解とご協力をいただいていることに、感謝を申し上げます。

一方で、学校では新学期もスタートするなど、社会経済活動が一層活発化をし、感染リスクが高まる時期を迎えているところでございます。

昨年4月の経験を踏まえますと、決して油断することはできません。

特に、全国的な、急速な感染拡大、ここには注意が必要であります。

昨日、大阪府で医療非常事態宣言が発出をされ、また、東京都でもまん延防止等重点措置の要請が決定をしたということでありまして。

本道は他県との往来が活発な地域であります。

そうした全国的な感染拡大にも、十分に警戒していかなければなりません。

道内においても、特に札幌市内では、感染しやすいとされておりまして変異株による感染が、引き続き、確認されていることに加えまして、入院患者、とりわけ重症の患者の方が増加をしているという状況であります。

先ほど説明がございましたけれども、6日には、市内の重症患者が、過去最多という状況になるなど、厳しい医療提供体制が続いている状況にあります。

医療機能が集積している札幌市の医療機関への負担の増加は、北海道全体の問題として捉えていかなければなりません。

各本部員においては、札幌市の感染者数をもう一段ここで減少させ、医療への負荷を低減をさせていく、そのためにも、4月16日までの残り1週間ではありますが、感染リスクを回避できない場合の不要不急の外出、そして往来の自粛のほか、飲食の場面における感染防止行動の徹底、特に重症化リスクの高い高齢者の感染を抑えていくため、市町村はもとより、高齢者関係団体などとも連携をして、注意喚起を徹底していただきたいと思います。

また、この間、まん延防止等重点措置の対象地域との不要不急の往来を控えることをお願いしてきたわけでありまして、先ほど申し上げましたが、特に医療非常事態宣言ということで発出をされました大阪府においては、医療体制が非常にひっ迫しているという状況にあります。

北海道から大阪をはじめとする関西圏を訪問をし、感染をすることによりまして、関西圏の医療提供体制の負荷を増加をさせることにつながるがございます。

特に大阪府をはじめとする関西圏との往来、この点においても、特に慎重に検討していただくことが重要であります。

こうした点について、改めて徹底した注意喚起をお願いしたいと思います。

加えて、先ほど申し上げましたが、まん延防止等重点措置、この対象地域への東京都などの追加、こういった新たな動きが見られます。

これはまだ決定をしていないわけでありまして、国において決定をされた際には、道と

しても、改めて対策本部会議を開催をいたしまして、迅速に必要な対策の見直しを行うことといたします。

今後の国の動きにも十分注視していただきたいと思います。

また、感染拡大の予兆の早期探知、これが極めて重要な時期であります。

変異株の検査につきましては、先ほど報告のありましたとおり、全国でも最も多い、そういう件数を処理をし、監視体制の強化を図ってきたところではありますが、重症化リスクのある高齢者の多い施設での検査、そしてさらには、国のモニタリング検査、こういったものなども、しっかりと取り組んでください。

さらに、ワクチンについてであります。

来週からは、高齢者向けの接種がいよいよ始まるわけであります。

ワクチン接種が本格化をしております。

市町村における接種について、地方本部の機能も活かして、万全の体制でサポートしていただくように指示をいたします。

最後に、間もなく、来月、ゴールデンウィークということで迎えるわけであります。

ゴールデンウィークは、人の移動が一層活発化するわけであります。

ここでの感染拡大を防いでいくため、早急に対応を検討していくように指示をいたします。

先ほどから様々な報告がございましたけれども、引き続き厳しい局面が続いているわけですが、感染リスクが高まるこの時期を何としても、急激な感染拡大を招かずに乗り越えていくために、引き続き全庁一丸となって取り組んでいくようお願いをいたします。

私からは以上です。

【副本部長（中野副知事）】

それでは、ただいま副本部長から指示のありました内容につきましては、各本部員、必要な対応をとっていただきますよう、お願いをいたします。

では、以上をもちまして、第44回本部会議を終了いたします。

(了)